

多文化共生フォーラム in Nagoya 2014.8.24

分科会 3 『つなぐ』人

構成員とともに成長し、
変化し続ける組織づくり
—入り口は広く、風通しよく—

「外国人の子ども・サポートの会」

<http://kodomosupport.jimdo.com/>

田所希衣子 jets@sda.att.ne.jp



構成員とともに成長し、
変化し続ける組織づくり
—入り口は広く、風通しよく—

- I. 当会の組織をつくる上でのヒント
- II. 当会の組織づくり
- III. 行政との協働
- IV. 次世代につなぐ



I. 当会の組織をつくる上でのヒント

1999年 NPOのマネージメントに関して
デラウェア大学の研修から得たヒント

ヒント①

-  行政と別な視点で問題を解決
-  少数のニーズに対し効率よく
-  見えなかったものを見るようにする

デラウェア研修の個人的なテーマ

文化・習慣・価値観の異なる多民族の人々が、お互いに納得する方法があるのだろうか。

ヒント②

-  事実を伝える
-  わかりやすくする
-  よく説明し、よく話し合う
-  自分をアピールして、相手を認める
-  評価をする

2002年 「乳幼児を連れた学習者etc.に 開かれた日本語教室を考える会」の 事務局を担当して得たヒント

- ・保育つき日本語教室のネットワーク
- ・ニュースレターで
教室の運営方法を紹介し合う

ヒント③

-  団体の枠を超えたネットワークの
情報交換から学ぶことは大きい

Ⅱ. 当会の組織づくり

学校への支援者の派遣事業は、
県内全域をカバーしている

宮城県内 宮城県国際化協会

仙台市内 仙台市教育委員会



学校外でのサポートのニーズがあった。

子どもたちが散在している状況



- ✎ 子どもがいるところに教室をつくる
子どもの近くにいる人がサポーターになる。
- ✎ 子どもとサポーターがいて、
机といすが2つあれば、教室ができる。



その教室を 会がサポートする。

2005年

「外国人の子ども・サポートの会」 スタート

学校外でのサポート活動に 必要な機能

-  サポート活動の機能
-  研修の機能
-  リソース・ライブラリの機能
-  リサーチと分析の機能

10年後の現在、会員の特徴は、
それぞれが教室をもつ。県内だけでなく県外も。



結果として できた組織の形

-  機能をつなぐ 単純な組織
-  必要に応じて 常に変化できる組織

構成員	会員	26名(県内、県外)
	サポーター会員	35名(県内)
	生徒会員	24名(県内)

サポーターのサポート

(宮城、青森、秋田、岩手、山形、福島)
勉強会、研修、情報提供、相談
教材作成、教材貸し出し など

事務局

4名+2名

サポート活動

(仙台の小中高生対象)
学習サポート、交流会
「サポートプラン2014」

ネットワークづくり

進路ガイダンス
夏休み教室(SIRA) など

ニーズに対する 事業の計画の立て方

- ✎ 今あるリソースは何か
- ✎ すでにある経験は何か

事業開始後の 小回りの利く微調整

- ✎ 実際に活動してみて、
小さい修正を絶えず続ける。
- ✎ 年単位で、組織の微調整も行う。
必要なところを充実させ、
不必要なところを削る

Ⅲ. 行政との協働

-  事業を自力でやってみる。
-  状況を把握し、
活動することで効果が生まれることを
確信した時点で、
問題点を出して、課題を整理する。
-  課題解決で、どうしても自力でできない
部分について、協働を考える。

助成金の申請などで気をつけていること

- ✎ 長期を見通して、活動の促進になるか、活動の停滞になるかを判断する

<期間限定の助成金>

- ✎ 助成金が終了しても、自力で活動が続けられるか。

<現状の課題解決に結びつかない事業>

- ✎ 他地域で有効な事業であっても、宮城県の状況に有効か。

IV.次世代につなぐ

親から子どもへ

親は一生続くサポーター

進路ガイダンス 親に正確で詳しい情報を母語で伝える
(県内の外国につながる子どもにかかわる団体が連携)

先輩から後輩へ 生徒と サポーター

兄弟姉妹の関係のイメージ

ヴィゴツキー「発達の最近接領域」
メンタリング（経験を積んだ人とペアを組む）
に近い

先輩の生徒たちに 伝えていること

- ✎ リーダーの役割は、
メンバーが 力を出し合う場をつくること